



[トランポリンで遊ぶ子どもたち](#)



[過疎地の山里にたくさんの参加者が](#)

令和元年11月17日、18日、はるの産業まつり(浜松市天竜区春野町)が行われた。

恒例の特産市は44年目を迎えた。春野町内をはじめ、天竜、水窪、佐久間などから約70の店舗、団体が出展。

お茶や椎茸、自然薯、和菓子、鮎の塩焼き、野菜、木工品、鍛冶製品など、地場産品などが一堂に並び、展示販売がおこなわれた。

イベントとしては、浜松市消防音楽隊によるパレード、高校生による勇壮な秋葉太鼓、静岡県出身のアーティストたちによる音楽ライブ、キッズダンスなど。

そのほか、ポニー、ハムスター、ヒヨコ、ウサギとのふれあえる移動動物園、マウンテンバイクの試乗、親子で楽しめる大物魚釣りゲーム、チョウザメタッチプール、トランポリンなど、子どもたちが楽しめる企画も。

過疎化の著しい春野町では、たくさんの方があふれかえるイベントは珍しい。いろいろな人との出会いがまた、たのしい。

鍛冶屋の片桐さん(83歳)。浜松でも唯一の鍛冶職人。地金づくり、研ぎから販売まで、ひとりでこなす。

「14歳のときから鍛冶を始めたので、70年になる。まだいくらでも仕事はできるんだけど、足腰が弱って痛い。ま、製品は腐るもんじゃないので、在庫は沢山あるんだ。惜しいのは、後継者がいないこと。だが、90歳まで現役で頑張る」。

Aさん夫妻。「春野に移住して、民宿を始めたけど、すぐに客が来なくなった。借金もあるし、どうしようもほんとうに苦しかった。あるとき、天竜川の石に猫の絵を描き出して、家族で描いた。それが売れるようになって、借金も返すことができた」。

手揉み茶の実演をしていたTさん。一昨年に移住して、古民家再生の設計事務所を開いたMさん。カラオケのフェスティバルで〈まちなか〉と山里を結ぶ企画をしているKさん、本業は茶園で、全国で金賞に輝く実績がある。子育てしながら、茶園の新規就農、夫婦で移動「和カフェ」の移動販売をしているYさん。

こうしたふとした出会いから。人生のドラマを知ることまた旅である。「月日は百代の過客にして、行きかふ年も又旅人也」(芭蕉)

浜松北部生きがい特派員 池谷 啓



[過疎地に子供たちは貴重な宝](#)